

## ま え が き

昨今、さまざまな領域でボランティア活動が取り上げられ、その必要性が叫ばれるようになりました。私自身のことをみても、昭和三十年代より活動に参加しはじめましたが、昨今は当時と比べようのないくらい動きます。しかも、社会の動向からみて今後ますます重要視されていくことでしょう。

ボランティア活動は市民による活動です。小書は、一市民という目から身近な日常生活や一歩街に出たようすをとらえる中で、日々の暮らしとボランティア活動とのつながりを追求したものです。

ボランティア活動は、ややもすれば日々の暮らしと別の空間にあるもの、活動はここ、日々の暮らしはここというようにかかわりのないものとしてとらえられがちです。しかし実は決してそうではないのです。ボランティア活動は、私たちの日々の暮らしの延長上にあるもの、つながったものであることを再認識したいものです。

長年の実践を基盤にしてまとめた小書が、皆さんの日々の暮らしとボランティア活動とを接近させることに少しでも役立てば大変幸いです。

なお、小書の執筆にあたっては大阪ボランティア協会の柴田善守理事長、岡本栄一常務理事の長年にわたる教えによるところが多大了。ここに特に記してお礼を申し上げます。また出版にあたっては、事務局の早瀬君にいろいろとお世話になりました。心より感謝申し上げます。

# 目次

まえがき	1
第一章 ボランティア — ことばの変遷から	7
一、「慰問・慈善」の時代	7
二、「ボランティア(奉仕……)」の時代	10
三、「ボランティア」の時代	12
四、「ボランティア」と「奉仕」 — その語源	15
第二章 現代社会の様相 — 日々の暮らしから	19
一、機械化、合理化、画一化現象	22
二、都市化現象	30
第三章 現代社会における課題 — 日々の暮らしから	39
一、手づくり	41
二、仲間づくり	51
三、地域社会づくり	55
第四章 ボランティア活動とは	61
一、ボランティア活動とは何か	63
二、ふくしとボランティア活動	66
第五章 まとめ — ボランティア活動は共育	71
事例一	74
事例二	75
事例三	76
補章 高齢者問題・障害者問題・児童問題	83
一、高齢者問題	85
二、障害者問題	89
三、児童問題	93
あとがき	98